

第5回 京奈和自動車道（大和北道路） 環境影響評価検討専門部会〔議事要旨〕

1. 開催日時

平成17年 9月12日（月） 14:00～16:30

2. 開催場所

奈良県経済倶楽部 大会議室

3. 出席者

池田有光、小船武司、○斎藤峻彦、瀬林伝、高田研一、西田正憲、
水野正好、梁瀬度子 <敬称略、五十音順、○印は部会長>

4. 議事

本日の専門部会では、方法書に対する知事意見及び住民意見を受け、環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法等について審議頂いた。

■ 審議の内容

《確認事項》

- 方法書において選定された調査、予測及び評価の手法については、知事意見及び住民意見について十分配慮がなされ、適切なものであることを確認した。
- 最新の情報により猛禽類の繁殖が確認されたので、動物に関する建設機械の稼働に伴う影響について新たに項目を追加することとした。
- 事業の必要性等環境保全の見地以外の意見については、当部会で審議するのではなく、都市計画法上の手続又は事業実施段階等において検討されるのが適当である。

《その他の主な意見》

（全 般）

- 環境基準がないものは、地域特性に応じて、環境保全目標をどのように設定するかを十分議論すべきである。
- ルート決定を早期に行い、環境影響について、地域特性に応じた具体的な検討を進めるべきである。

（大気質）

- 環境影響評価の実施にあたっては、環境保全措置等についてできる限り複数案を比較し、検討すべきである。
- 環境影響評価の項目でなくとも、住民の関心のある事項については、住民に分かりやすい説明をすべきである。

（動 物）

- 環境現況調査で猛禽類の繁殖が確認されているため、建設機械の稼働に伴う衝撃音による動物への影響の検討が必要である。

（景 観）

- 景観の眺望点については、観光客だけでなく生活者の立場から、地域に密着したところも含め、幅広く選定を行うべきである。
- 換気塔については、計画を具体化するにあたっては、景観だけでなくその他の環境要素との調和を図る必要がある。

（文化財）

- 文化財と地下水は密接な関係にあり、知事意見にもあるように、慎重に環境影響評価を進めていく必要がある。
- 道路が地下構造であれば遺構への影響は少ないが、地上への出入り口部や高架部等では全線について発掘調査が必要となる。

（地下水）

- 準備書作成段階では、最新のデータに基づく地下水現況の把握と、構造物が第一帯水層に設置される周辺を含め、決定されるルート・構造でシミュレーションを行う必要がある。

（その他）

- 環境影響評価法に係る関係省庁の主務省令の改正状況を踏まえ、今後の環境影響評価の実施について適切に対応すべきである。

